

## 「市民的公共圏と多様化する歴史認識—ヨーロッパとアジアにおける記憶と和解」

研究代表者：川喜田敦子

### I 2021年度研究計画①海外渡航する場合

前年度の成果を受け、日本側研究メンバーによる研究会としては、S セメスターに第3回研究会を実施し、最終的に刊行する論集の構成について議論する。A セメスターの第4回研究会では、メンバーが研究報告を行う。

国際会議としては、11月に、DESK プロジェクト「トランスナショナルな都市空間における和解研究」との共催で、第2回国際ワークショップを開催する。第1回ワークショップ（2021年3月）の成果を踏まえて、「和解」「罪」「暴力」といった概念や、和解について検討するうえでの「都市空間」という視角の有効性について議論する。

また、同じく11月に、中国・北京大学ドイツ研究センター、韓国・中央大学校ドイツ・ヨーロッパ研究センターとの共催で、国際会議「共にヨーロッパとアジアにおける持続可能な未来に向けて」を開催する。ドイツのパートナー大学の研究者によるオンライン基調講演および2つのパネルセッションにおいて、記憶と歴史（過去をめぐる認識）と和解プロセス（未来に向けた取り組み）のふたつのテーマおよびその相互関係について議論を深める。

これらの成果を踏まえて、2022年3月にドイツのパートナー大学（ボン、ドレスデン）を訪問し、海外学術キャラバンを実施する。

なお、本プロジェクトの研究成果の発信のため、2021年6月に学生交流セミナー（西オーストラリア大学、フランクフルト大学と共催）を開催する。また11月に開催する国際会議の基調講演は同時通訳付きでの実施とし、本プロジェクトの取り組みを広く公開する機会とする。

#### 【年間スケジュール】

2021年6月	学生交流セミナー「現在のなかの過去」
7月	第3回研究会（論集の構成に関する討論）
10月	第4回研究会（メンバーによる研究報告）
11月5日	第2回国際ワークショップ（DESK プロジェクト「トランスナショナルな都市空間における和解研究」と共催）
11月6、7日	国際会議「共にヨーロッパとアジアにおける持続可能な未来に向けて」（中国・北京大学ドイツ研究センター、韓国・中央大学校ドイツ・ヨーロッパ研究センターと共催）
2022年3月	ドイツのパートナー大学（ボン大学、ドレスデン工科大学）を訪問し、海外学術キャラバンを実施（7日間）する。

## II 2021年度研究計画②海外渡航ができない場合

日本側研究メンバーによる研究会、国際ワークショップ、国際会議、学生交流セミナーの開催については計画Iと同様。2022年3月に予定されている海外学術キャラバン実施は2022年度に延期する。